

龍安寺周辺エリア

～龍安寺道・等持院・きぬかけの道 仁和寺・衣笠山・立命館大学～

エリア概要

- 御室・花園地域は、衣笠山から朱山、大内山などの山々を経て愛宕山へと山並みが続き、その山ろくには龍安寺、仁和寺、妙心寺などの社寺や史跡・景勝地が多く存している。
- 鹿苑寺及び等持院の一带では、大文字山の南麓に金閣寺が配され、西方には衣笠山、龍安寺山（朱山）などが広がる。この一带は社寺の地として開かれたが、近代以降は整った住宅地として発展し、さらに戦後は立命館大学が立地し、その隙間を埋めるようにして住宅地化が進んでいった。
- 鷹ヶ峰、衣笠、鹿苑寺及び等持院の一带の山地部分、御室・花園地域の衣笠山から西山に連なる山地部は、歴史的風土特別保存地区の指定により、山林がきれいにまとまって保存されている。
- 鹿苑寺及び等持院の一带の民家の周りや龍安寺参道沿いには、生垣などの豊かな植栽空間が連続している。
- 立命館大学では、きぬかけの道側に修景上有効な植栽が施されている。

-  視点場（境内）
 視点場（参道等）
 特に着目する通り
 （白線） エリアの主な通り

龍安寺（世界遺産）

龍安寺は、臨済宗妙心寺に属する禅寺である。世界文化遺産に登録されている。

敷地全体が緑に包まれており、背後の山々との一体感が感じられる。



龍安寺前



鏡容池

きぬかけの道

金閣寺・龍安寺・仁和寺等、寺社をつなぐ道となっており、山林・生垣・和風塀が並んでおり、緑豊かな落ち着いたたたずまいが見られる。



仁和寺

正面参道と一体をなす門前景観が見られ、仁和寺は、きぬかけの道の顔となっている。



等持院周辺

等持院は、臨済宗天竜寺派の禅寺である。等持院領が76%を占め、その他は仁和寺宮御領などで、これも幕末まで大きな変化はなかったという。¹⁾

現在は、敷地の大きな戸建住宅が多く、通りから敷地内の植栽が見える



等持院



等持院門前付近

龍安寺道

龍安寺門前の村落形成は、南を妙心寺、西を仁和寺、東を等持院に囲まれた地域であったことによって、かなり早い時期に成立していたといわれている。昭和に入ると、市街化は南に広がり、龍安寺商店街となった。龍安寺参道沿いの深い緑の連続は、かつての洛外の寺院参道の風趣を伝えており、門前通周辺の住宅地は、生垣・和風塀が連担した統一感のある和風空間を呈している。道からは龍安寺の背後にある朱山が見える。



龍安寺付近



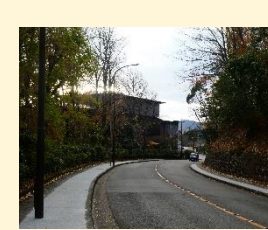
龍安寺道から
天皇御陵がある
朱山を望む



龍安寺参道
商店街

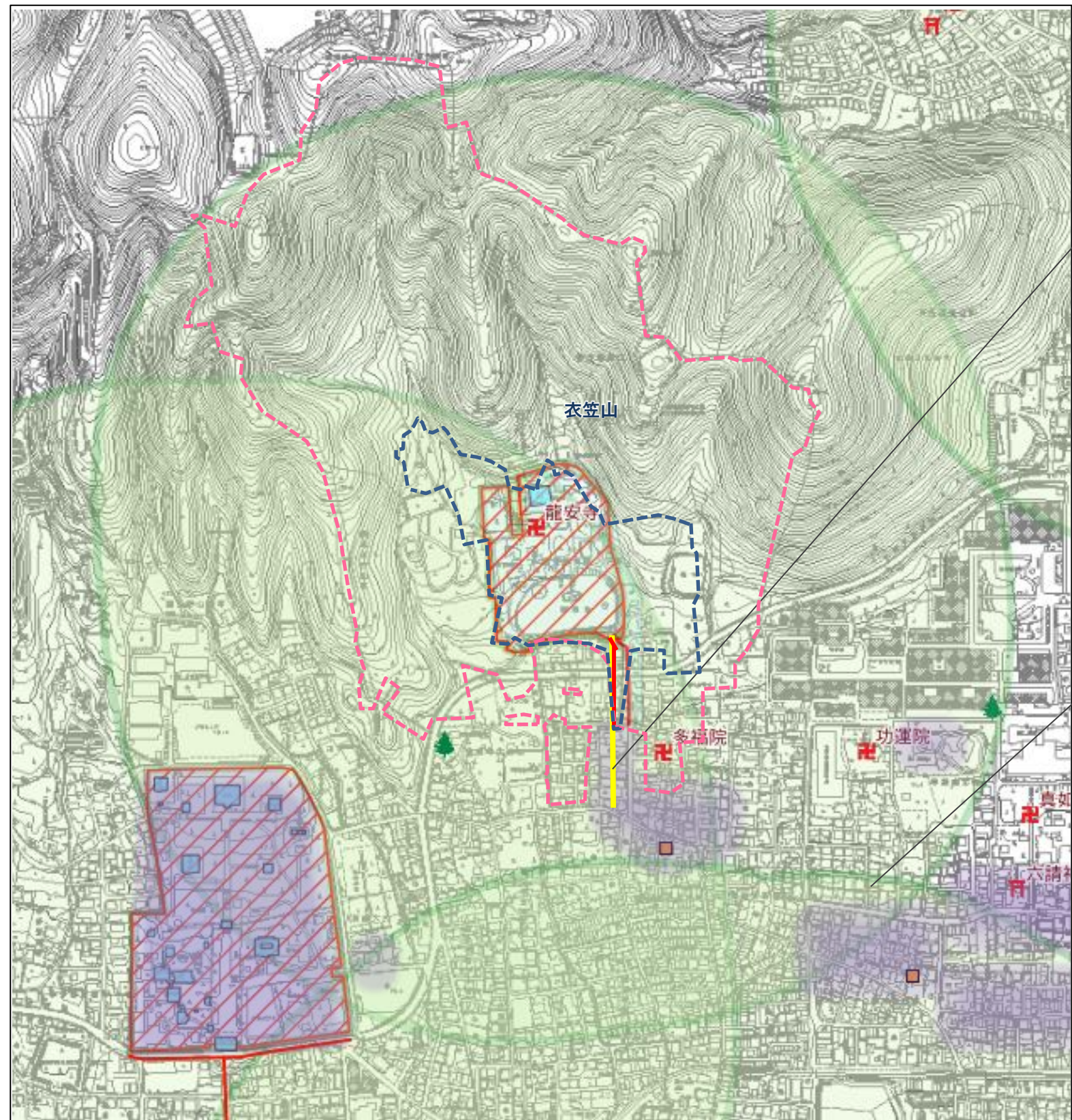
立命館大学

昭和40年から現在地への移転を進め、昭和56年に移転完了した。このエリア一帯の景観の一部となっている。



きぬかけの道沿い

エリアの概要

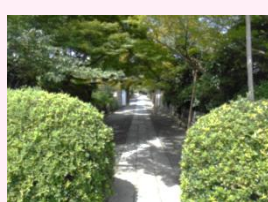


※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

龍安寺門前

龍安寺門前の村落形成は、南に妙心寺、西に仁和寺、東に等持院に囲まれた地域に建立されたことによって、かなり早い時期に成立していたといわれている。寛政3年（1791年）京都奉行所へ提出した境内図に朱印高720石余とあり、幕末までは現在の京福電車線路から北方はほぼ龍安寺領で、農耕を主としたが、商工業に従事する人も比較的多かった。²⁾

昭和に入ると、市街化は南に広がり、龍安寺商店街となった。龍安寺道を北に歩くと、龍安寺の背後にある衣笠山が見える。





龍安寺付近

龍安寺道から
朱山を望む

龍安寺商店街

等持院村

等持院領が76%を占め、その他は仁和寺宮御領などで、これも幕末まで大きな変化はなかったという。³⁾

等持院門前は、明治5年には真如寺門前とを合わせて等持院村とし、昭和30年代まで農業を中心にしていたという。⁴⁾

現在は、敷地の大きな戸建住宅が多く、通りから敷地内の植栽が見える。




等持院門前付近

【凡例】



視点場（境内）



視点場（参道等）



近景デザイン保全区域



特に着目する通り



明治25年以前から
存在する市街地



界わい景観整備地区



建造物・庭園



景観重要建造物・歴史的風致形成建造物



歴史的意匠建造物



界わい景観建造物



京を彩る建物や庭園



文化財（建築物）



文化財（史跡・名称）



国土地理院社寺データ等



樹木



天然記念物



保存樹



明治16-18年時点の境外



明治16-18年時点の境内

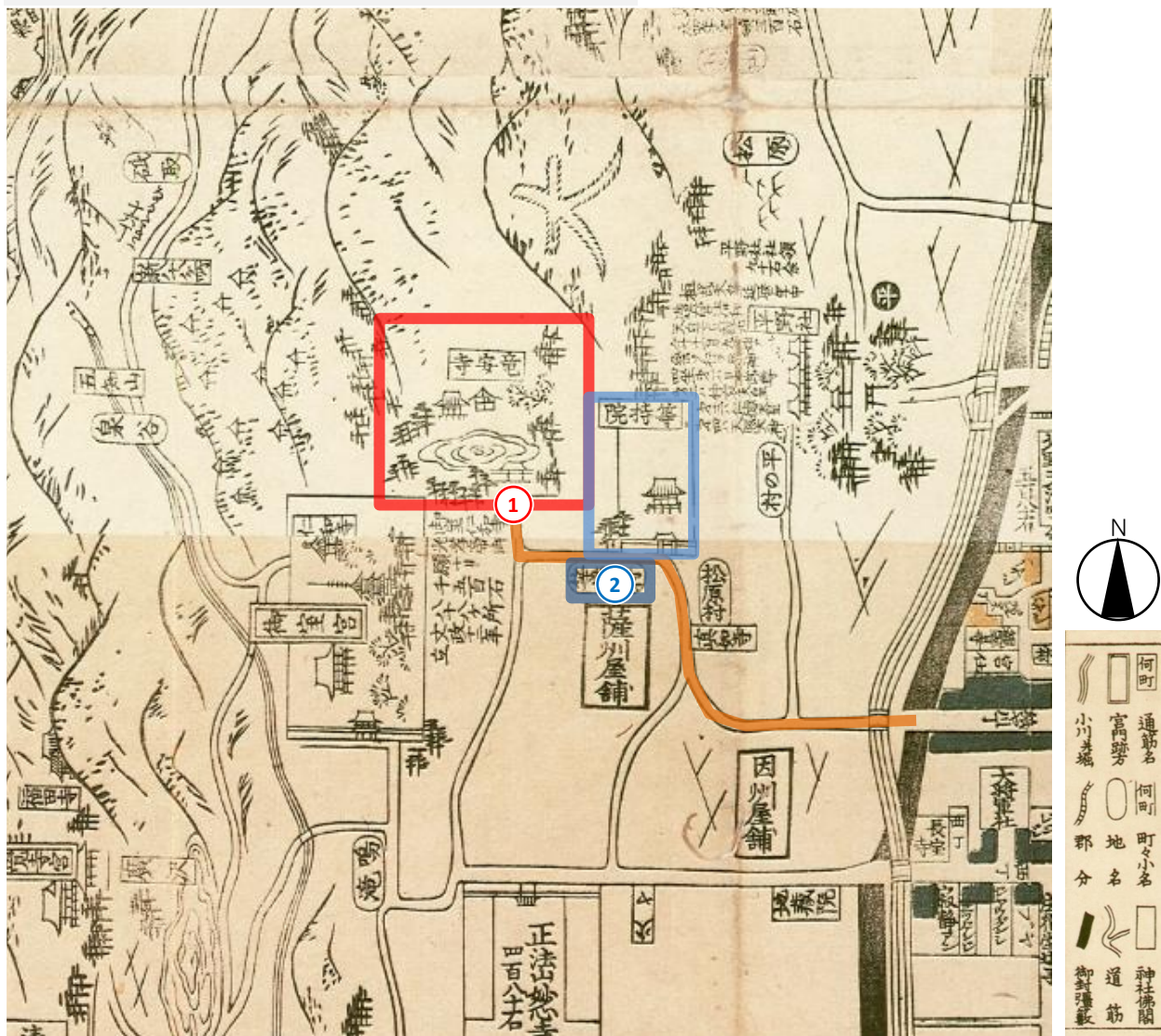


・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年) (上地政策による境内地減少前)



京町御絵図(明治2年)

①龍安寺・等持院門前

洛中から直接龍安寺、等持院へ至る道であり、龍安寺への参詣以外の人々も多くが利用したであろう。

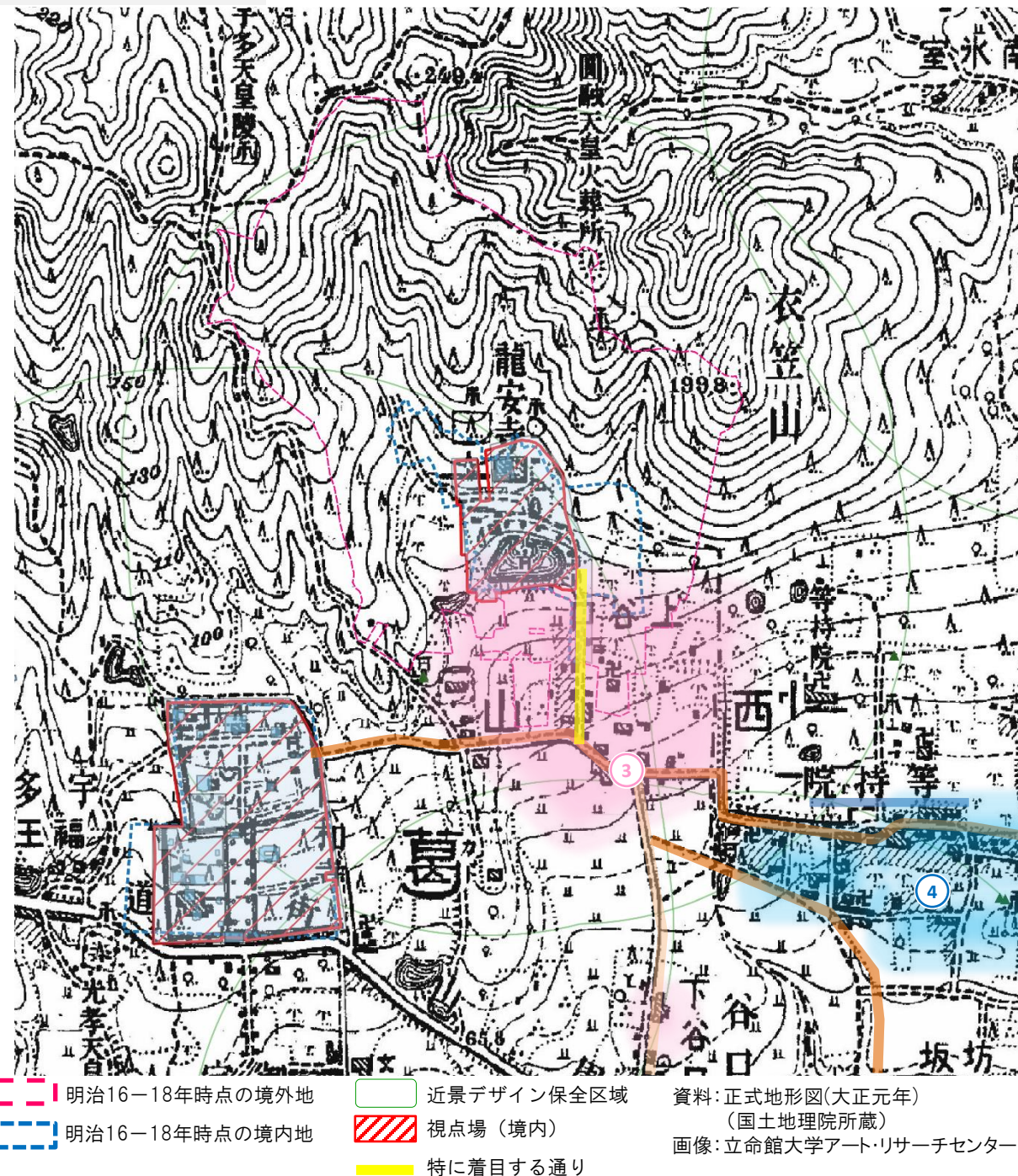
○龍安寺門前

龍安寺門前の村落形成は、南に妙心寺、西に仁和寺、東に等持院に囲まれた地域に建立されたことによってか、かなり早い時期に成立していたといわれている。1583年の龍安寺門前の田地には、龍安寺門前の他に、等持院門前や妙心寺門前、池上村住人などが出作していたといい、これら門前に住む人々が行きかっていたとみられる。その後、農耕を主としたが、商工業に従事する人も比較的多かった。⁵⁾

②等持院村

当時、村高は百石余であったといい、等持院領が76%を占め、その他は仁和寺宮御領などで、これも幕末まで大きな変化はなかったという。⁶⁾

大正元年(1912年)



明治16-18年時点の境外地 近景デザイン保全区域 資料: 正式地形図(大正元年)
明治16-18年時点の境内地 視点場(境内) (国土地理院所蔵)
特に着目する通り 画像: 立命館大学アート・リサーチセンター

③龍安寺門前

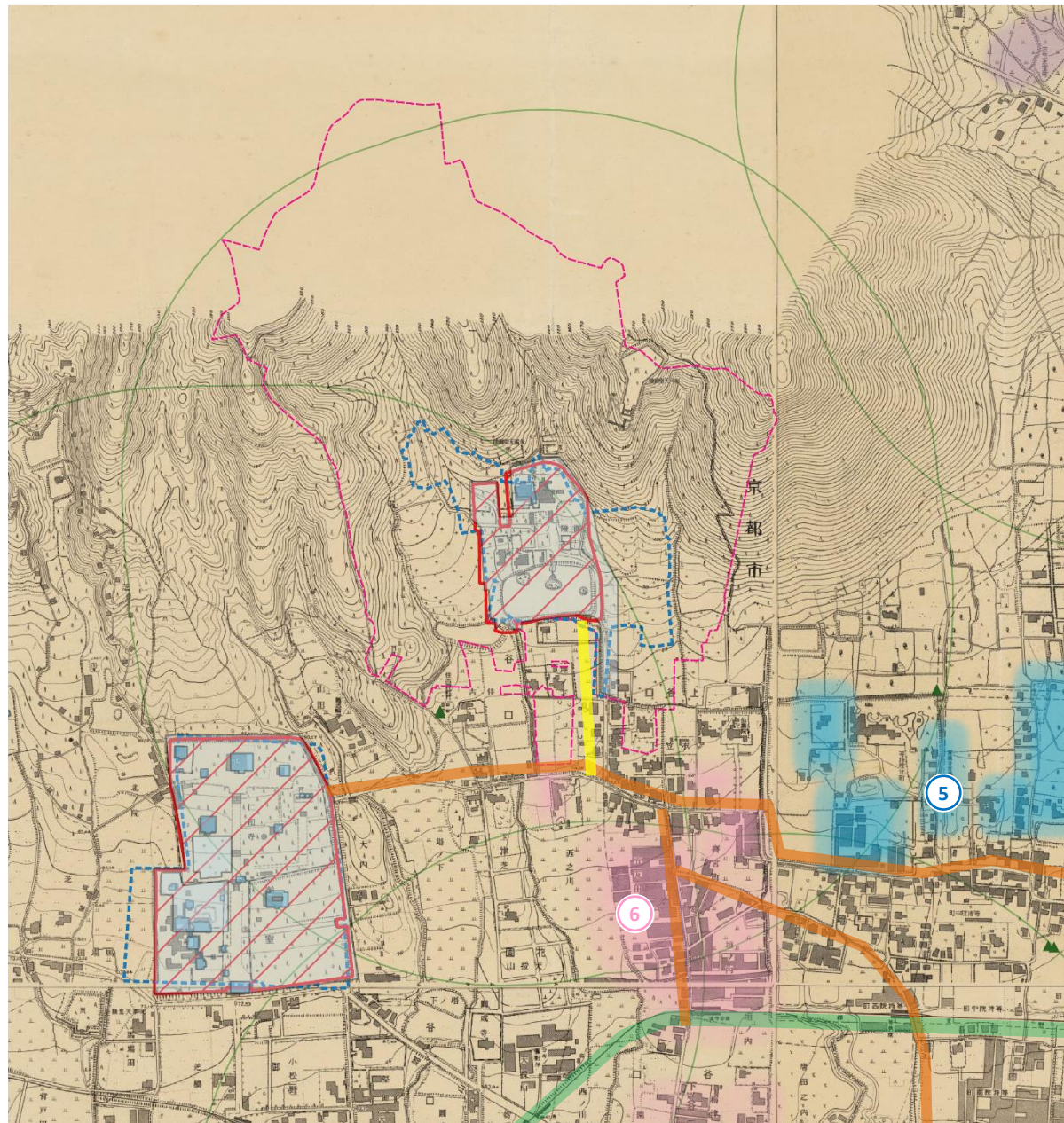
明治22年には、花園村に統一されたが、地図には「上谷口」「下谷口」の名があり、現在でも使われているという。現在龍安寺道と呼ぶ道は、斎ノ宮小路と呼び、大正時代まで田や畑に囲まれていた。明治初めには、約80戸、400人ほどの人口だった。⁷⁾

④等持院村

等持院門前は、明治5年には真如寺門前とを合わせて等持院村とし、その戸数は寺社を含めて63戸、村民数は175人であった。その後、昭和30年に北区へと編入された。等持院村は、昭和30年代まで農業を中心に行っていたという。⁸⁾

エリアの土地利用の変遷（2）

昭和4年(1929年)



資料：京都市都市計画基本図(昭和4年)(京都府立総合資料館所蔵)
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

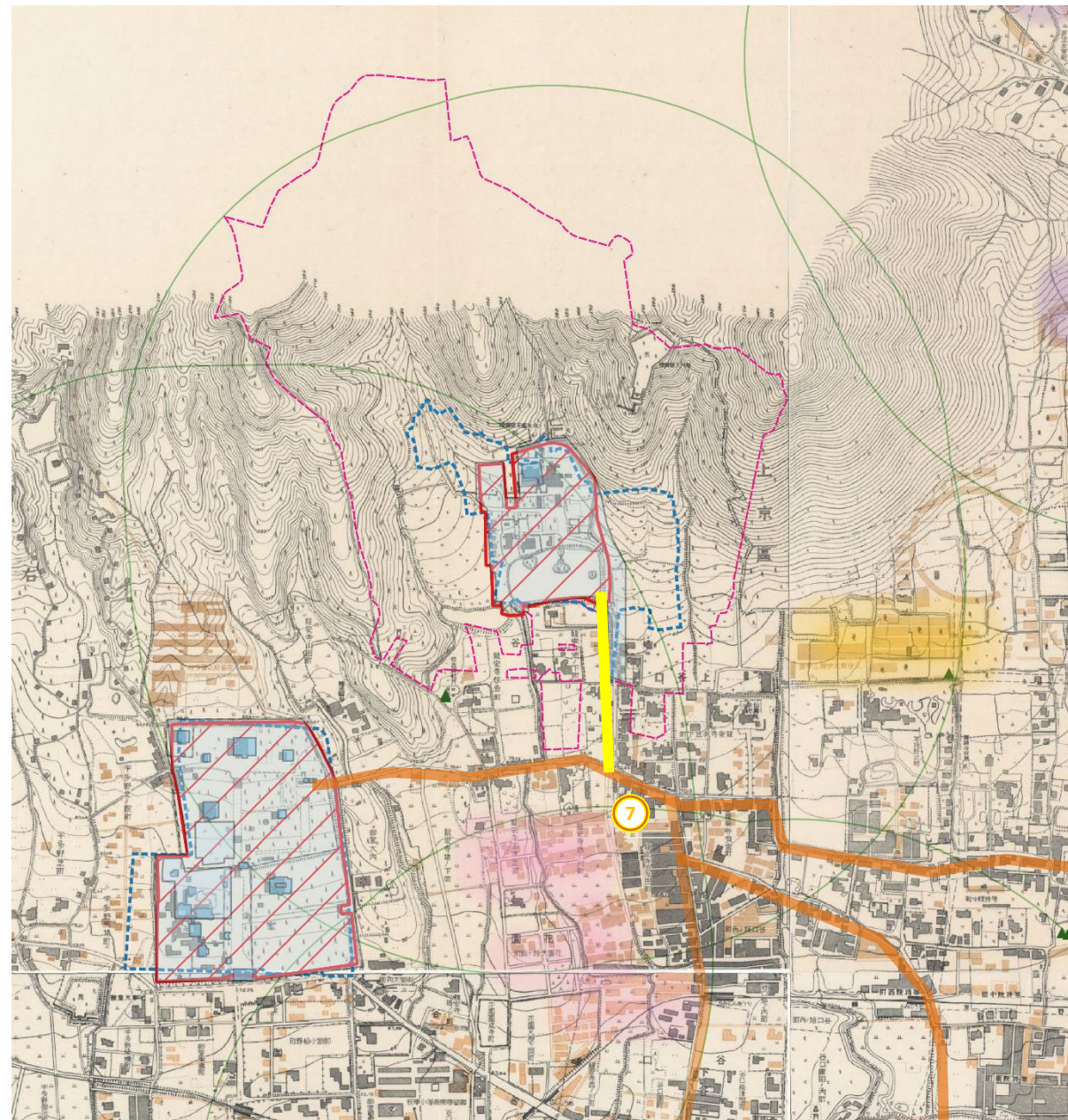
⑤等持院村

等持院の周辺で市街化が進んでいる。

⑥龍安寺前商店街

一条街道の開通が影響してか、龍安寺門前は、南北線状に市街化が進んだ。

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容
昭和28年の修正測図

資料：京都市都市計画基本図(昭和28年)
(京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像：立命館大学アート・リサーチセンター

⑦立命館大学

昭和40年から現在地への移転を進め、昭和56年に移転完了した。

※ この地図は、京都市発行の都市計画基本図(縮尺1/3,000)を参考にし、作成したものです。

龍安寺

龍安寺は、貴族の別荘地を宝徳2年（1450年）に室町幕府管領細川勝元が禅寺としたものである。応仁の乱で消失し、明応8年（1499年）に方丈が再建されて諸堂が整備された。その後、寛政9年（1797）に方丈が焼失したため、慶長11年（1606）に建立された西源院方丈を移築したのが現在の方丈（本堂）である。

特別名勝に指定されている方丈庭園は、方丈の南側に広がり、東・南・西面を築地塀で囲まれた矩形の石庭で、白砂敷のなかに5群15個の石組が配されている。この庭園は15世紀末期に造られたものと伝えられており、自然を狭い空間に圧縮し、抽象化して表現する枯山水庭園は世界的にも著名である。また、昭和51年（1976年）に築地塀の一部が倒壊寸前になり、屋根瓦も痛んでいたため、改修工事を行い、屋根を瓦からな柿に葺き替えている。龍安寺では特別名勝の方丈庭園の他、貴族の別業時代の名残である、鏡容池を中心とした龍安寺庭園が名勝に本堂が重要文化財建造物に指定されている。⁹⁾

■ 文化財

重要文化財	本堂（方丈） 及び附玄関	224
国指定史跡 及び特別名勝	方丈庭園	58
国指定名勝	庭園	294

[国指定重要文化財]



本堂※

〔国指定史跡及び特別名勝〕

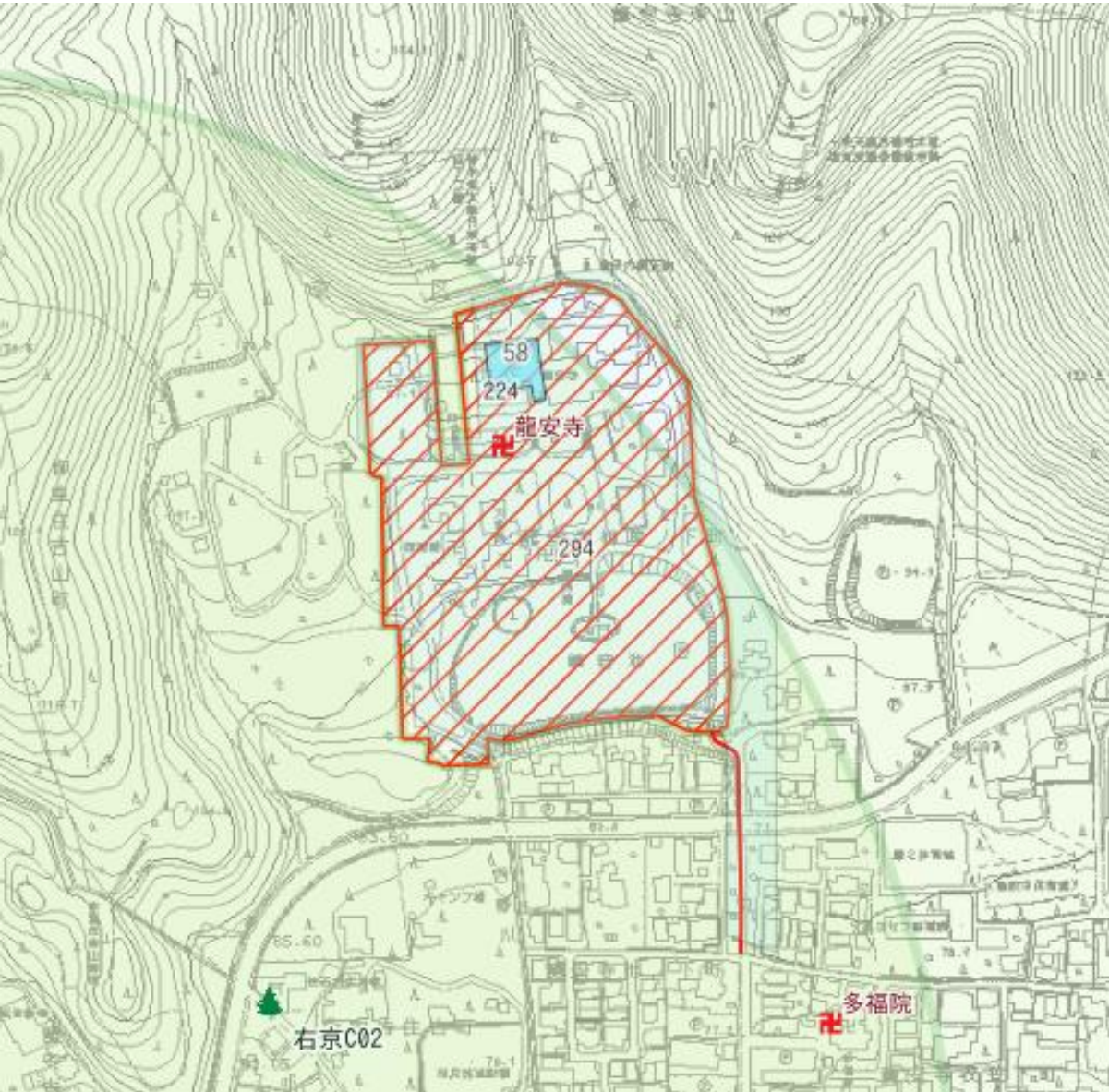


方丈庭園

[国指定名勝]



庭園※



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

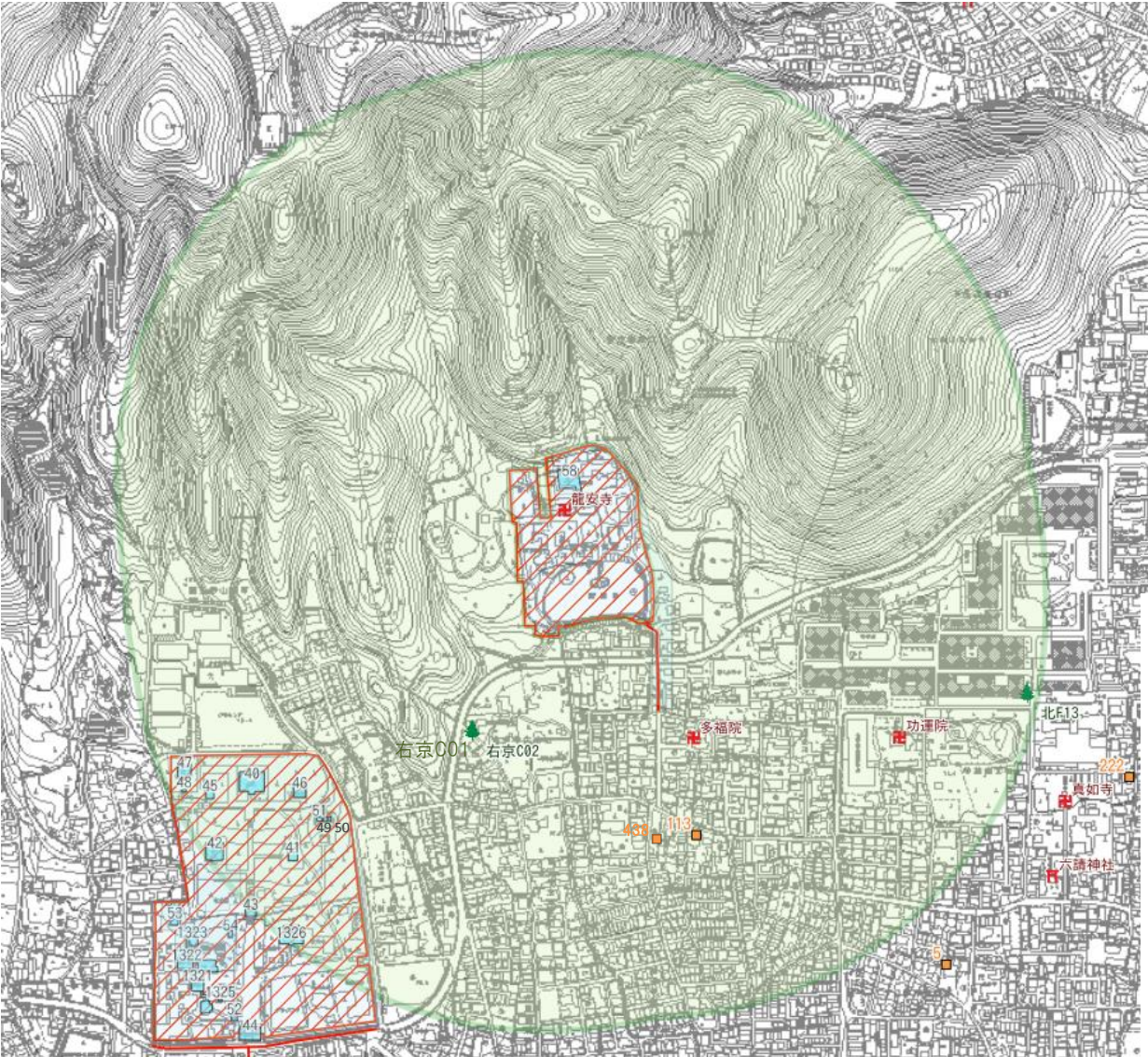
	視点場（境内）		建造物・庭園 景観重要建造物・歴史的風致形成建造物		樹木 天然記念物
	視点場（参道等）		歴史的意匠建造物		保存樹・区民の誇りの木
	近景デザイン保全区域		界わい景観建造物		
			京を彩る建物や庭園		
			文化財（建築物）		
			文化財（史跡・名称）		

国土地理院社寺データ等 ※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m²以上の社寺データ

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

龍安寺周辺の歴史的資産(1)



【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

国土地理院社寺データ等

※

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

仁和寺

双ヶ丘の北方、大内山南麓に位置し、宇多野・双ヶ丘・花園の丘陵地帯に囲まれる。大内山と号し、真言宗御室派の総本山。仁和寺門跡・御室御所ともいう。本尊は阿弥陀三尊。光孝天皇等身の如来と伝える。平成6年（1994）世界の文化遺産（古都京都の文化財）に登録された。
御室御所の名は、仁和寺が光孝天皇の御願寺として出発し、第一世を宇多天皇、以下代々親王が入寺したことにより、門跡寺院として洛中諸寺院中でも重きをなしたことによる。¹⁰⁾

金堂※
国宝

五重塔※
重文

観音堂※
重文

中門※
重文

鐘楼※
重文

経蔵※
重文

御影堂※
重文

御影堂中門※
重文

九所明神本殿※
重文

霊宝館※
国登録

御室（サクラ）※
/指定

御所跡※
国指定

等持院

衣笠山麓にある。臨済宗天龍寺派、万年山と号し、本尊釈迦如来。「雍州府志」には「在真如寺西、斯寺古在山上」と、堂舎がもと山上（衣笠山か）にあったとし、「都名所図会」には「本尊の地蔵菩薩、大聖歓喜天の堂、鎮守六請明神等、今にあり」と記す。もと真言宗で仁和寺の一院と伝える。¹¹⁾

真如寺

臨済宗相国寺派。万年山と号し、本尊釈迦如来。弘安9年（1286）無着如大尼が師の無学祖元（仏光国師）の爪髪を奉じて塔所とし、正脈庵と号したのに始まるという。¹²⁾

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

6

龍安寺周辺の歴史的資産(2)

住吉大伴神社



龍安寺の南西、仁和寺との中間に位置する。大伴氏の氏神である伴氏神社に大伴氏衰退後藤原一門である徳大寺家が住吉神を勧請したため住吉大伴神社とよばれた。¹³⁾



ヒノキ 右京C01

[区民の誇りの木]

ヒノキは社殿の背後にそびえる、20mにおよぶ大木となっています。神社は平安時代末に和歌の神として復興し、現在に至ります。ヒノキの雄大な姿は神社の朱塗りの建物とよく調和し、歴史を感じさせてくれます。



スギ 右京C02

[区民の誇りの木]

境内のほぼ中央にシンボルのように植えられた大木でよく目立ちます。

立命館大学



北区等持院北町にある私立大学。学校法人立命館が運営。明治33年開校の京都法政大学を前身とする。創設者は西園寺公望の秘書をつとめた中川小十郎。
かつては御所東にあったが、昭和40年から現在地への移転をす
すめ、56年に完了。¹⁴⁾



イチヨウ 北F13

[区民の誇りの木]

大学の敷地内ですが、街路樹状に配置されています。

榎木家

[京都を彩る建物や庭園]



113

榎木家の本家。明治の建築。梁や大黒柱が太く、部屋の空間がダイナミック。ベンガラ塗りの格子が印象深い。茶室、庭、蔵など雰囲気がある。

伝心庵

[京都を彩る建物や庭園]



438

明治に建てられた私邸で庭園を持つ。仁和寺の近くに建ち、現在は旅館として活用されている。

六請神社



真如寺の門前に鎮座。天照大神をはじめ、六柱の神を祀る。もとは衣笠山に葬られた人々の御霊を祀る社であったと考えられる。近辺の松原村・等持院門前村が当社を産土神として祀っていたこと、真如寺・等持院が当社を鎮守社としていたことが知られる。¹⁵⁾

景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

西山風致地区

【概況】

当地区は、鷹ヶ峰、衣笠地区、金閣寺及び等持院の一带、御室・花園地域、梅ヶ畑、太秦、蚕の社周辺から構成され、鷹ヶ峰、衣笠、金閣寺及び等持院の一带の山地部分、御室・花園地域の衣笠山から西山に連なる山地部は、山林がきれいにまとまって保存されており、原谷盆地の周囲の樹林、沢ノ池を中心とする沢山の森林も、林業による植林等により、きれいにまとまって保全されている。

また、社寺の境内地にも緑が多く、妙心寺境内は西側の双ヶ岡の展望台から眼下に見え、北側の仁和寺一带とともに緑濃い一画を形成している。市街地内に存する双ヶ岡、法金剛院周辺についても本地域の景観を形造る一団の緑地となっている。

金閣寺及び等持院の一带の民家の周りや龍安寺参道沿いには、生垣等の豊かな植栽空間が連続し、立命館大学では、きぬかけの道側に修景上有効な植栽が施され、山ろくやその周辺の宅地では、敷地規模も大きく緑化も行き届いている。

【良好な景観の形成に関する方針】

●御室・花園地域の緑豊かな和風空間

御室・花園地域では、衣笠山から西山に連なる山地の南麓部をしっかり押える格好で、仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街においても、宅地も中規模以上の敷地が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されているため、これらの緑豊かな和風空間の維持を図る。

龍安寺と参道との一体的な空間構成や仁和寺大門を中心とする文化財周辺地域として、景観的な重要度の高い地域であり、その仁和寺南方の双ヶ岡は、東側に位置する法金剛院とともに、市街地風景に固有の表情を与えている。妙心寺については、肅然と立ち並ぶ禅刹の建築群が見る人に深い感動を与え、龍安寺門前地区については、参道両側では各戸がこんもりと厚みのある生垣を植え、伝統的和風建築が参道から後退して樹木の間に垣間見える。龍安寺参道沿いの深い緑の連続は、かつての洛外の寺院参道の風趣を伝えている。門前通周辺の住宅地は、生垣・和風塀が連担した統一感のある和風空間を呈している。このため、これらの風致の維持を図る。また、きぬかけの道の沿道においては、山林・生垣・和風塀が並んでおり、緑豊かな落ち着いたたたずまいを呈しており、その沿道景観も家屋は道路から後退して樹木も多く、落ち着いたきのある景観が見られ、これらの沿道景観の風趣の継承を図る。



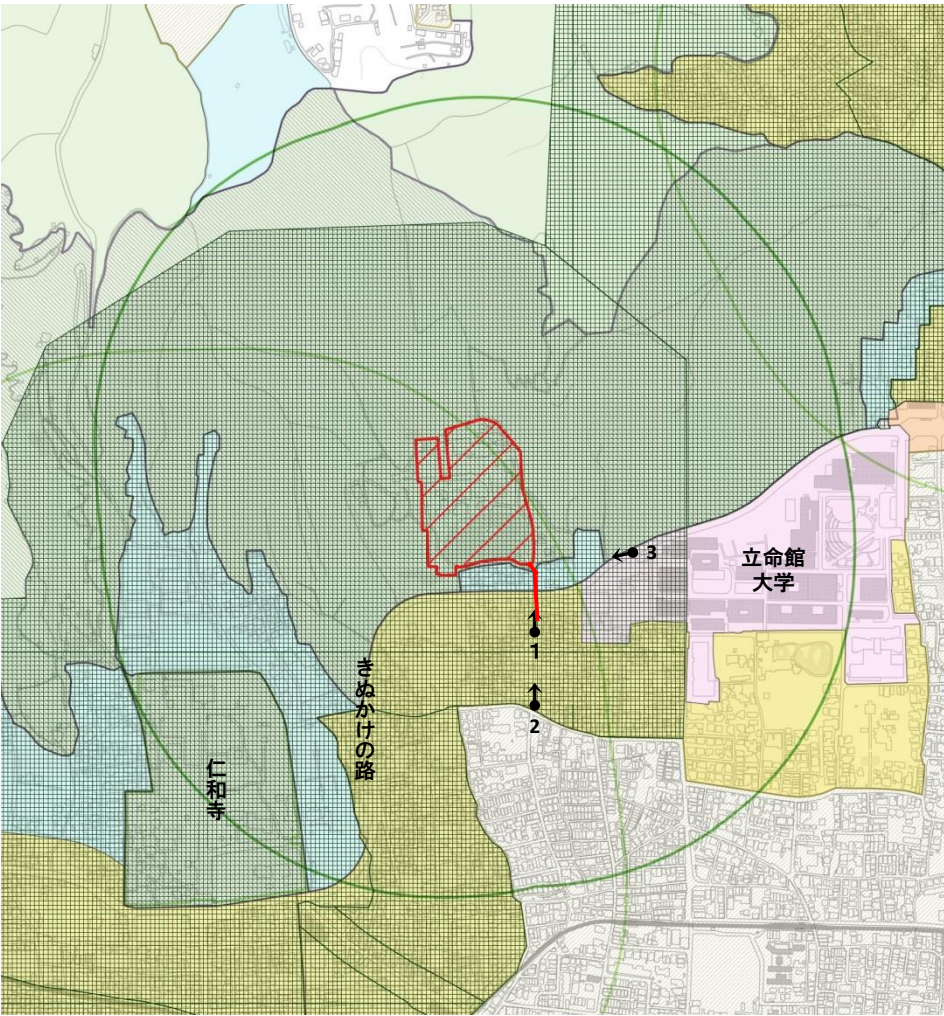
1) 龍安寺参道



2) 龍安寺参道



3) きぬかけの路沿道



【凡例】

眺望景観保全区域

- 視点場（境内）
- 視点場（参道等）
- 近景デザイン保全区域

風致地区

- 風致地区第1種地域
- 風致地区第2種地域
- 風致地区第3種地域
- 風致地区第4種地域
- 風致地区第5種地域
- 風致特別修景地区

建造物修景地区

- 山ろく型建造物修景地区
- 山並み背景型建造物修景地区
- 岸边型建造物修景地区
- 町並み型建造物修景地区

その他

- 伝統的建造物群保存地区
- 歴史的風土保存地区
- 歴史的風土特別保存区域

景観地区

- 山ろく型美観地区
- 山並み背景型美観地区
- 岸边型美観地区
- 旧市街地型美観地区
- 歴史遺産型美観地区 一般地区
- 歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
- 歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
- 重要界わい景観整備地域
- 沿道型美観地区
- 市街地型美観形成地区
- 沿道型美観形成地区

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.43

2) 西田 直二郎/編. 洛西花園小史. 積善館. 1945. p.166

3) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.43

4) 同上、 p.385

5) 西田 直二郎/編. 洛西花園小史. 積善館. 1945. p.166

6) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.43

7) 御室小学校学区創立百十周年記念誌編集部. 御室. 御室福祉連合会. 1989. p.21

8) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第6巻 北区. 平凡社. 1985. p.385

9) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.147

10) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.556-p.557

11) 同上、 p.513

12) 同上、 p.393

13) 同上、 p.404

14) 佐和 隆研 ほか編集. 京都大事典. 淡交社. 1984. p.975

15) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.739